



Technology for People's Future

第39期 年次報告書

2010年1月1日 ~ 2010年12月31日

「人のためのテクノロジー」にこだわり
絶えず挑戦し続けるタツモグループです。



—— 不断のチャレンジ精神 ——

「挑戦」はタツモグループの企業理念です。

「人のためのテクノロジー」にこだわり、あらゆる可能性を追い求め、研究・開発はもちろん、すべての事業活動の根幹に“不断のチャレンジ精神”は息づいています。

ごあいさつ



代表取締役会長
鳥越 俊男



代表取締役社長
池田 俊夫

今こそ変革のとき。 世界で戦える企業へ。

株主のみなさまにおかれましては、平素よりあたたかいご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

当社は2010年11月11日開催の取締役会において、代表取締役社長の異動を発表いたしました。リーマンショックの影響により、直近2年は業績も大幅に落ち込んでおりましたが、韓国、台湾のメーカーを主体に急激に需要も回復しており、ようやく最悪の時期を脱することができました。さらには、開発中の新製品も徐々に芽生え始めており、新年度のスタートを機に経営トップの若返りを図り、新たな経営体制により、一層の業績向上を目指すべく社長交代を決議したものです。

新任の池田俊夫は、当社の代表取締役専務と事業本部長を兼任し、グローバルなビジネスを最前線で体験してまいりました。強いリーダーシップを発揮し、世界で戦える企業へ成長するために、努力を惜しまず邁進することをお約束いたします。

鳥越俊男は、今後も代表取締役会長として、当社のガバナンス体制の充実に努めるとともに、地域団体などの対外活動をも担い、新しい経営体制を支えてまいります。

今後とも、株主のみなさまのより一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

インタビュー

V字回復に さらなる挑戦を。

代表取締役社長 池田 俊夫

第39期(2010年12月期)の業績と、中期経営計画「TAZMO Vision2012」1年目の進捗状況、ならびに今後の見通しにつきまして、代表取締役社長の池田俊夫がご報告させていただきます。



2期連続の赤字から脱却し 業績回復から成長へ

過去2期にわたり、リーマンショックの影響による急激な設備投資の鈍化により、非常に厳しい業績を続けてまいりましたが、第39期においてようやくV字回復の第一ステップをクリアしました。株主様に対し、ご心配をおかけしましたことを改めてお詫び申し上げますとともに、その間あたたいご支援を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

第39期における業績回復の要因ですが、主力の液晶製造装置部門では、液晶ガラス基板の大判サイズである第8世代向けの液晶CF(カラーフィルター)製造装置が好調に推移して売上のベースをつくり、加えてそれよりも小さいサイズの第4.5世代・第6世代向けの需要も伸長しました。前年より売上はやや減少しましたが、満足できる数字を残せたと思っています。

半導体関連機器部門についても、半導体シリコンウェーハ搬送装置が目標を大きく上回る売上を達成し、なかでも電子顕微鏡用のウェーハ搬送装置は倍増の伸びを示しており、2011年度になってもその勢いは衰えていません。今後の期待は大きいものがあります。

金型・樹脂成形事業につきましては、子会社のプレテック株式会社と本社の金型製造部門を統合して効率化を図り、一方で主にエンボステープ成形の海外生産を上海・大連で本格化させました。まだ体制を整えた段階ではありますが、国内での金型製造部門の統合は人的交流も一因となって活性化に結びついており、中国での業績も着実に伸ばしつつあり、順調に業績回復の道を歩んでいます。

開発装置から量産装置の生産へと 着実な歩みの各新規事業

中期経営計画「TAZMO Vision2012」の観点から第39期を見ますと、1年目としては概ね合格点を付けてもいいのではと思っています。

液晶製造装置では、液晶ガラス基板を空中に浮かせて塗布する新しいコンセプトの液晶CF製造装置を東京応化工業様と共同開発しました。多少、不具合対策費用がかかりましたが、その点も解決し、出荷の運びとなっております。タッチパネル関連新規装置は、具体的な受注に結びついて計画通り量産タイプの開発ができました。さらなる精度アップを追求しながら2011年度・2012年度と注力を重ね、事業の柱の一つとして成長さ

TAZMO Vision 2012の基本方針

独自性のある装置の提供に向けて先端の技術・情報を得るために、常に「挑戦」の気持ちを持って行動し独自性のある装置(性能、コスト、サービス)を着実に作り上げる。

事業を見据えた研究開発に焦点を絞り、その効率を高め将来の収益確保とする。

2012年度目標値

売上高	130億円以上
経常利益率	6%以上
配当性向	20%以上
研究開発費	3年間で10億円



せる計画です。また、電子ペーパーの分野では、今後、市場に求められるのは高精細で、かつスピードが速く、より明るいというタイプであり、そこに当社にとってのビジネスチャンスがあると考えています。準備は着々と進んでおり、2011年度に量産試作ラインが整い、本格稼働は2012年度になるでしょう。タッチパネルと電子ペーパーの分野は、当社のウェット塗布技術をもってすれば価格面でかなりの競争力が発揮できるので、大いに期待しています。

半導体関連機器部門では、アメリカの3M社と共同開発してきたウェーハ・プロセス装置が海外も含め大手半導体メーカーへ納入が実現しており、ウェーハ・サポートシステムは好調な滑り出しを見せています。早くも顧客からは第2世代の要望が出ており、すでに開発をスタートさせていますが、事業の拡充に加え、開発にも積極的な投資を検討しているところです。

洗浄装置は、特殊なタイプと国内向けのオーソドックスな枚葉タイプ装置を開発しております。日本国内では供給できない特殊装置の方は、台湾政府の研究機関である工業技術研究院(ITRI)へ昨年納入し、ITRI、デバイスメーカー、タツモの三者で評価実験中で、売上も2011年度中に結果が出せると確信しております。競争が少ないので、マーケットをコントロールしながら創造できるメリットも魅力です。

シリコン太陽電池製造装置が 2011年2月からテスト稼働

IPCRテスター(温度印加基板検査装置)は、プリント配線基板にプラス150度からマイナス50度と交互に温度のストレスを与えて検査を行う装置です。2010年11月に第1台目が完成し、検査装置事業も同時期にスタートしました。検査装置に使う治具というピンが数百本出ている機器も2009年の終わりにスタートしております。装置は金額が大きいので、ある程度の時間がかかりますが、自動車、原子力業界に対して、営業案件も充分に見込めておりますので期待しております。第39期は赤字でしたが、第40期は黒字に転換できる見通しです。

球状シリコン太陽電池製造装置の事業化につきましても、2011年2月からテスト稼働を開始しております。ロール・ツー・ロールという技術で、直径1ミリの球状シリコンを用いた発電効率を高めた球状電池を樹脂で挟み、ラミネートすることで、ローコストの太陽電池を連続して一貫製造していく装置です。国から補助金が出る予定ですので、そういった意味でもリスクが少ないというメリットがあります。太陽電池パネルやシートを作るプロセス・製造装

置も開発しておりますが、この装置は試作機に近いので、量産装置は1年後を見込んでいます。大幅に設計も見直すことになると思います。ただ、コアの部分は検証できますのでサイズ調整、スピードアップも行っています。スタートして半年程ですが、世の中でまだ誰もやっていない分野ですので早く本格稼働したいと考えております。

海外戦略につきましては、台湾支店・韓国支店を開設しました。台湾は現在従業員が4名ですが、メンテナンス、営業活動、アフターサービス、消耗品の販売活動と10名程度までは増やしていく計画です。韓国もここ数カ月で早急に従業員を4名体制に強化します。当社の半導体製造装置を使っていただける半導体メーカーが数社あり、そのフォローが重要だと認識しております。次のステップは1～2年を目処に、両支店を現地法人化したいと考えております。

有機EL照明の製造装置はいよいよ量産体制の第3ステップ

有機EL照明の研究開発については、ナノスケールの膜厚でウェット塗布する技術が求められています。パナソニック電工様、出光興産様、そして当社とで共同研究開発を進めておりますが、2010年3月までの3年間で研究開発の第1ステップ、2011年3月までで課題抽出の第2ステップが終了、第3ステップでは量産を目指してまいります。サンプル出荷は2011年からで、具体的な設備投資は2012～2013年に計画しております。



研究の末、一番難しい部分をクリアできましたので、3年後ぐらいからのスタートになれば、それなりの事業規模が確保できるかと考えております。ヨーロッパではやがて、水銀を使用しているので蛍光灯輸入禁止になると予測されるため、各企業は必死です。当社も開発スピードをあげ、全力で取り組んでまいります。

積極的な共同開発・協業を推進し 新たな分野の開拓を加速

第40期は、昨年と大きくは変わりませんが、生産品目を徐々にチェンジしてまいりますので、売上の柱となる事業も変化してくると思われます。さらに業務、組織改革も継続してまいります。金型・樹脂成形事業については、第39期に組織改革をドラスティックに行いましたし、半導体や液晶といった当社の柱となる部分でも人を動かしていきます。すでに液晶の設計課長を半導体関連の新プロジェクトに異動させ、社内的には大きなインパクトを与えることになりました。事業面では、これまでに開発してきたものを市場に送り出すことになりますので、期待が持てる半面、当然、着実な業績向上も遂げていかねばなりませんから、第39期よりは厳しい面も出てくるであろうと予想

され、一層、心して業務に取り組む所存です。

第40期は当然、第39期よりもプラスの目標を設定しておりますし、人を積極的に動かし、新しいアイデアや技術の採択も図ってまいります。ただし、部門別損益ばかりを求めることに固執すると成長のチャンスを逃すことにもなりかねませんので、常に全体のバランスを見ることが大切だと考えております。ユーザーや株主様から評価していただけるためには事業規模の拡充、業績アップはもちろんですが、内部管理も強化しなければいけません。昨年よりコンサル会社と契約し、改善作業を進めています。さらに会計監査人も有限責任監査法人トーマツに変更いたしました。従業員にとって、達成感や誇りを持てる会社であらねばなりません。私を先頭にして会社の価値が高められるような次のステップアップを図りたいと考えております。

さらに当社のインフラを基盤にした他社とのコラボレーションによる相乗効果、つまり協業という柔軟性を持ちつつ、M&Aといったものも視野に入れた企業運営を行ってまいります。また、できるだけ早い段階で外部の経験者や優秀な人材、技術力を確保する意味も含め、多くの人が集まる首都圏に、設計・開発ができる研究所を作る構想も必ず実現させたいと考えております。

タツモは、独自性豊かな「人のためのテクノロジー」にこだわりながら、技術ならびに事業革新に邁進してまいりますので、今後もより一層のご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



新製品

φ200mm／φ300mm兼用 枚葉洗浄・エッチング装置 SSP123シリーズ

この度開発いたしましたSSP123は半導体ウェーハの精密洗浄と各種膜のエッチング装置です。各プロセスモジュールは完全に隔壁で隔離されている構造で、各モジュールで最適な気流をコントロールすることができます。また、一つのユニットで複数の薬液を使用するこの洗浄装置では、使用する薬液の回収・再利用を確実にできるような形状の処理ユニットを採用しており、環境にも配慮

した装置となっております。

SSP123は次世代半導体技術であるTSV (through-silicon via Si貫通電極) 工程での微細電極孔の精密洗浄、電極のコントロール・エッチングが可能であり、昨年末には台湾の工業技術研究院 (ITRI) へ納入し、共同で洗浄・エッチングの評価を行っております。



担当者
に聞く!!

最先端の技術で環境にも優しい装置 を提供します。

システム機器部設計2課 課長 大蔵領一



洗浄装置のコンセプトを決めるのに苦労したのは、「顧客の満足する洗浄装置はどのような物か」ということでした。大量の薬液、特に酸、アルカリ、有機溶剤（アルコール系）、純水等を使用しますが、それら薬液は使い捨てであり、薬液の回収・再利用が課題でありました。私たちはいかに環境に考慮した装置を作るかというテーマを主題に取り組みました。当初は水を使用し、使用量と回収した量の計測から始まり、その後、実際に使う薬液へと移行し、試行錯誤を経て、条件さえ合えば回収率99%以上を可能にし、かつ薬液を混ぜないように回収できる処理ユニットを考案しました。現在は回収率を誇る、環境に貢献できる装置として国内、海外のお客様から注目をいただいております。

当時を考えると、自分の部屋に帰ってもどのような方式が一番いいのかなどと、水道水の流れを見ても、入浴していても考える毎日でした。技術者同士で薄い板を購入し、手作業で何回も形を作って研究、議論したことを思い出します。

半導体を製造することは人間の便利性を最大限に引き出せ、生活の向上につながる産業だと技術者としての自負は持っていましたが、環境に貢献できることであることがこの一つの開発テーマから学ぶことができました。私たちタツモは最先端の装置を市場に提供しておりますが、最先端での技術を駆使した環境にも優しい装置も今後提供し続けてまいります。

2010年度 連結業績

当社グループが属する電子機器業界におきましては、スマートフォン、タブレットPC等の需要増加を背景に各半導体メーカーの設備投資が堅調に推移いたしました。このような状況のもと、当社グループは、液晶、半導体製造装置の営業強化、新規装置の開発に取り組んでまいりましたところ、新規装置の受注や売上が計上されてきております。また、前年より実施している原価低減、経費削減の効果も出始めております。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は10,821百万円（前期比26.0%増）、営業利益366百万円（前期は営業損失785百万円）、経常利益354百万円（前期は経常損失702百万円）、当期純利益383百万円（前期は当期純損失1,247百万円）となりました。

	2010年度 連結会計年度 自 平成22年1月1日 至 平成22年12月31日	ご参考	
		前連結会計年度 自 平成21年1月1日 至 平成21年12月31日	対前期 増減率
売上高	10,821 百万円	8,588 百万円	26.0%増
営業利益又は 営業損失(△)	366 百万円	△ 785 百万円	—
経常利益又は 経常損失(△)	354 百万円	△ 702 百万円	—
当期純利益又は 当期純損失(△)	383 百万円	△ 1,247 百万円	—

セグメント別概況

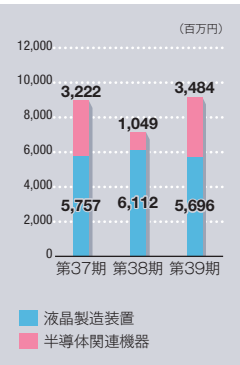
プロセス機器事業

■ 液晶製造装置

液晶業界の成熟化のなか、韓国、中国を主体に出荷をいたしました。売上高は前連結会計年度に比べ415百万円減収の5,696百万円（前期比6.8%減）となりました。

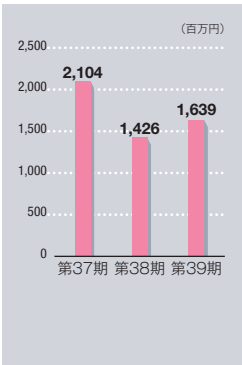
■ 半導体関連機器

韓国、台湾の設備投資が本格的に回復いたしました。売上高は前連結会計年度に比べ2,434百万円増収の3,484百万円（前期比232.0%増）となりました。



金型・樹脂成形事業

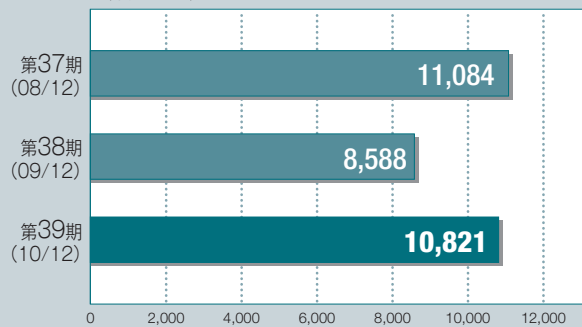
デジタル家電向け製品などの材料を主体として売上は順調に回復いたしました。しかし、製品価格については依然として厳しい状況が続いており、その結果、売上高は前連結会計年度に比べ213百万円増収の1,639百万円（前期比15.0%増）となりました。



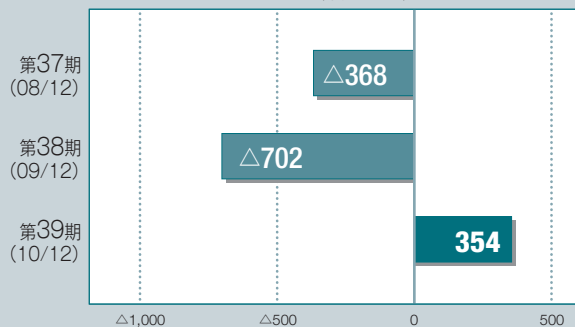
単独業績の報告

当社単独の業績につきましては、売上高10,410百万円（前期比27.3%増）、営業利益321百万円（前期は営業損失788百万円）、経常利益322百万円（前期は経常損失695百万円）、当期純利益253百万円（前期は当期純損失1,246百万円）となりました。

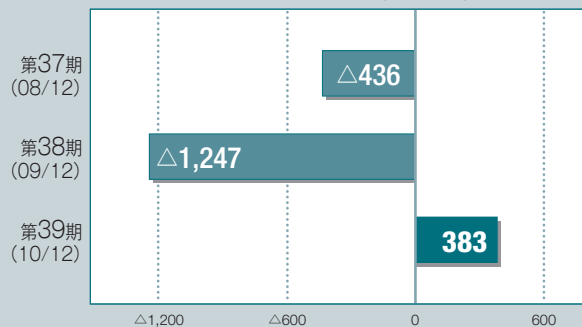
売上高 (単位:百万円)



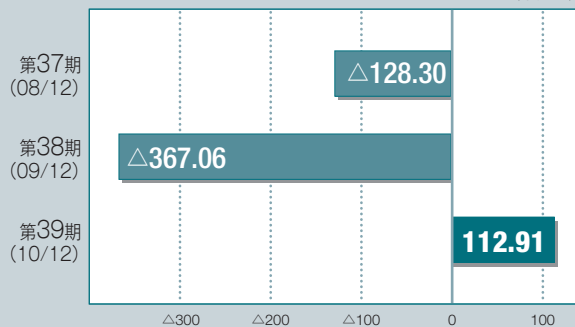
経常利益又は損失(△) (単位:百万円)



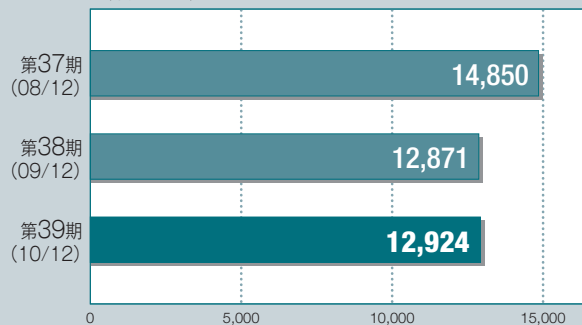
当期純利益又は純損失(△) (単位:百万円)



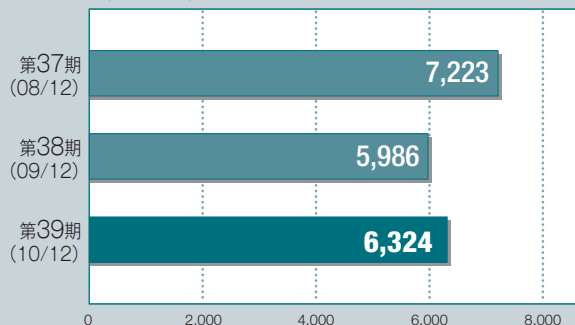
1株当たり当期純利益又は純損失(△) (単位:円)



総資産 (単位:百万円)



純資産 (単位:百万円)



連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	前連結会計年度末 (平成21年12月31日現在)	当連結会計年度末 (平成22年12月31日現在)
資産の部		
流動資産	8,630	9,166
固定資産	4,241	3,758
資産合計	12,871	12,924
負債の部		
流動負債	5,455	5,339
固定負債	1,429	1,260
負債合計	6,885	6,600
純資産の部		
株主資本	6,038	6,422
資本金	1,395	1,395
資本剰余金	1,909	1,909
利益剰余金	2,734	3,118
自己株式	△ 0	△ 0
評価・換算差額等	△ 52	△ 97
その他有価証券評価差額金	△ 1	△ 2
為替換算調整勘定	△ 51	△ 95
純資産合計	5,986	6,324
負債及び純資産合計	12,871	12,924

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	前連結会計年度 (自 平成21年 1 月 1 日 至 平成21年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 1 月 1 日 至 平成22年12月31日)
売上高	8,588	10,821
売上原価	7,736	8,476
売上総利益	851	2,344
販売費及び一般管理費	1,637	1,977
営業利益または 営業損失(△)	△ 785	366
営業外収益	115	32
営業外費用	31	44
経常利益または 経常損失(△)	△ 702	354
特別利益	16	2
特別損失	102	233
税金等調整前当期純利益または 税金等調整前当期純損失(△)	△ 788	123
法人税、住民税及び事業税	34	19
法人税等調整額	424	△ 279
当期純利益または 当期純損失(△)	△ 1,247	383

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前事業年度末 (平成21年12月31日現在)	当事業年度末 (平成22年12月31日現在)
資産の部		
流動資産	8,159	8,763
固定資産	4,286	3,734
資産合計	12,445	12,497
負債の部		
流動負債	5,160	5,091
固定負債	1,345	1,214
負債合計	6,506	6,305
純資産の部		
株主資本	5,941	6,193
資本金	1,395	1,395
資本剰余金	1,909	1,909
利益剰余金	2,636	2,889
自己株式	△ 0	△ 0
評価・換算差額等	△ 1	△ 2
その他有価証券評価差額金	△ 1	△ 2
純資産合計	5,939	6,191
負債及び純資産合計	12,445	12,497

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

(単位:百万円)

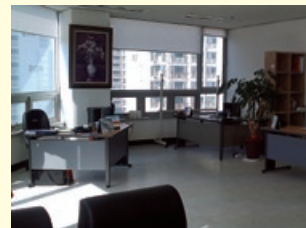
科目	前事業年度 (自 平成21年 1月 1 日 至 平成21年12月31日)	当事業年度 (自 平成22年 1月 1 日 至 平成22年12月31日)
売上高	8,180	10,410
売上原価	7,575	8,358
売上総利益	605	2,051
販売費及び一般管理費	1,393	1,730
営業利益または 営業損失(△)	△ 788	321
営業外収益	121	60
営業外費用	28	59
経常利益または 経常損失(△)	△ 695	322
特別利益	14	1
特別損失	135	345
税引前当期純損失(△)	△ 817	△ 20
法人税、住民税及び事業税	2	8
法人税等調整額	426	△ 282
当期純利益または 当期純損失(△)	△ 1,246	253

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

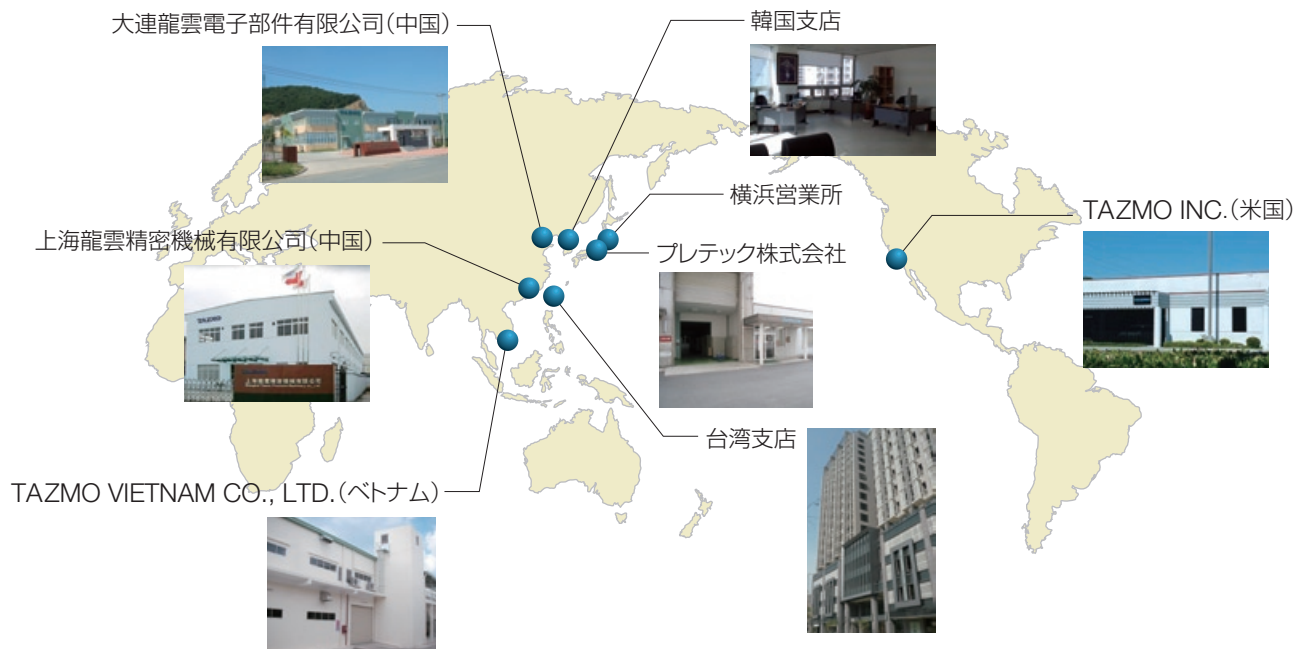
Topics

営業拠点として韓国支店を開設

2010年11月、韓国の京畿道 華城市に韓国支店を開設いたしました。プロセス機器事業、特に半導体関連機器での韓国ユーザーへの営業、メンテナンス体制の強化を目的としております。同年1月に開設いたしました台湾支店と共に、プロセス機器事業の海外拠点として安定させ、現地での事業の成長性と投資効果などを充分検討しながら、早期に現地法人化を目指してまいります。



海外ネットワーク



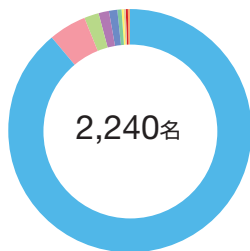
株式の状況 (2010年12月31日現在)

■ 株式の総数	
発行可能株式総数	13,600,000株
発行済株式の総数	3,400,000株
■ 株主数	2,240名
■ 大株主(上位12名)	

株主名	持株数	持株比率
鳥越 俊男	745,000株	21.91%
東京応化工業株式会社	360,000	10.59
タツモ従業員持株会	199,900	5.88
中銀リース株式会社	101,500	2.99
鳥越 琢史	85,000	2.50
株式会社中国銀行	74,500	2.19
鳥越 紀男	70,000	2.06
株式会社石井表記	68,200	2.01
株式会社ニッコウトラベル	67,800	1.99
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	60,000	1.76
中銀カード株式会社	60,000	1.76
中銀保証株式会社	60,000	1.76

(注) 持株比率は自己株式(276株)を控除して算出しております。

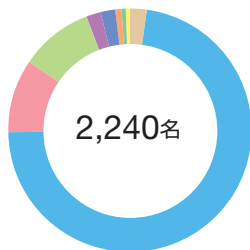
■ 所有者別株主分布



■ 個人・その他	2,153名
■ その他法人	55名
■ 金融商品取引業者	15名
■ 外国法人等	6名
■ 信託銀行	4名
■ 銀行	2名
■ 生命保険会社	2名
■ 損害保険会社	1名
■ 政府・地方公共団体	1名
■ その他金融機関	1名

※自己株式は含めておりません。

■ 所有単元数別株主分布



■ 1単元未満	36名
■ 1単元以上	1,673名
■ 5単元以上	219名
■ 10単元以上	249名
■ 50単元以上	23名
■ 100単元以上	28名
■ 500単元以上	8名
■ 1,000単元以上	3名
■ 5,000単元以上	1名

※自己株式は含めておりません。

会社概要 (2010年12月31日現在)

商 号	タツモ株式会社
本 社 所 在 地	〒715-8603 岡山県井原市木之子町6186番地
設 立	昭和47年2月
資 本 金	1,395,240千円
事 業 内 容	液晶製造装置、半導体製造装置、搬送ロボット、 精密金型などの製造販売
従 業 員 数	351名(連結 642名)
営業所・工場及び支店	横浜営業所・第二工場・第三工場・第五工場 玉島工場・台湾支店・韓国支店
子 会 社	プレテック株式会社 TAZMO INC.(米国) 上海龍雲精密機械有限公司(中国) 大連龍雲電子部件有限公司(中国) TAZMO VIETNAM CO., LTD.(ベトナム)

主要取引銀行

株式会社中国銀行	
株式会社三菱東京UFJ銀行	
取締役及び監査役 (2011年3月29日現在)	代表取締役会長 鳥 越 俊 男
	代表取締役社長 池 田 俊 夫
	専 務 取 締 役 国 光 美 暢
	常 務 取 締 役 福 井 啓
	取 締 役 仕 田 原 仁 志
	取 締 役 亀 山 重 夫
	常 勤 監 査 役 高 橋 正 明
	監 査 役 瀧 本 博
	監 査 役 佐 々 木 健
	監 査 役 大 山 邦 雄

株主メモ

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで
 定時株主総会 毎年3月
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
 同 連 絡 先 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
 (〒541-8502)
 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
 ■お問い合わせ先
 0120-094-777 (フリーダイヤル)
 ■各種手続き用紙のご請求
 0120-684-479 (フリーダイヤル)
 株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱
 UFJ信託銀行のインターネットでも24時間承って
 おります。
<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>
 公 告 掲 載 新 聞 日本経済新聞

[手続き書類のご請求方法]

- 音声自動応答電話によるご請求 0120-684-479 (通話料無料)
- インターネットによるダウンロード <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

ホームページのご案内



IR情報を当社のホームページに掲載いたしましたので、
 こちらからもご覧ください。

<http://www.tazmo.co.jp/>

株主のみなさまの声を お聞かせください

当社では、株主のみなさまの声をとお聞かせいただくため、
 アンケートを実施いたします。
 お手数ではございますが、
 アンケートへのご協力をお願いいたします。



※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツーメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)
 ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」 TEL: 03-5777-3900 (平日 10:00~17:30) MAIL: info@e-kabunushi.com

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示される
 アンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。



<http://www.e-kabunushi.com>

アクセスコード 6266

いいかぶ

検索

Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、
 いいかぶ と4文字入れて検索してください。



空メールにより
URL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)
 アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます

タツモ株式会社

〒715-8603 岡山県井原市木之子町6186番地